

2014年5月17日（土）

浅間嶺（903m：奥多摩）

写真 by 熊本、能勢、根岸

九州ミヤマキリシマ・ツアー前の足慣らしとして奥多摩の浅間嶺（903m）に岡部さん、根岸さん、能勢さん、熊本の4名で行ってきました。



青梅線 武蔵五日市駅に8時に集合。

根岸さん、熊本は一本早めの電車で到着しバス停に並ぶ。



数馬・都民の森行のバス（8:22 発）は長蛇の列。根岸さん、熊本は前から2番目に並び、能勢さん、岡部さんは20番目位だ。



増発3便がでて同時発車。

第一便に根岸・熊本組、2便に能勢・岡部組で優先的に座席を確保してくれた。しかし出発時には各バスは超満員の状況。このまま約一時間乗車する。



我々は浅間尾根登山口で下車。3台のバスから降りたのは我々4人の他、たった5名のみ。

他の皆は「三頭山」に登るため都民の森終点まで行くのだろう。

先ずバス停前で、ストレッチ体操で体の筋肉を解す。



予定通り 9:20 に出発。

バス停から檜原街道を少し戻る。



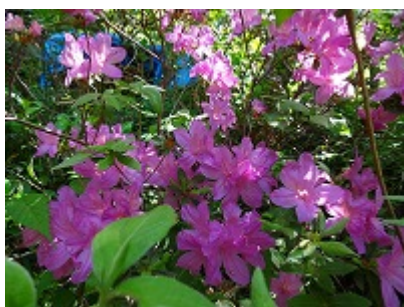
3分程で、「浅間坂」への標識が出ていた。前回の破風山では登山口を間違えて、えらい苦勞しており、今日は二度と繰り返さないよう地図で確認し、OKで左折する。



最初の集合写真を、浅間坂入口で撮る。
本日のメンバー4人。



舗装された林道を少々登ると、浅間尾根への狭い山道となった。
次々と春の高山植物が現れる。
ツツジ、シャクナゲ、ヤマブキ、アヤメ等多彩である。

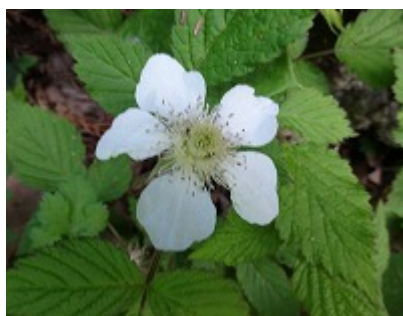




檜林の登山道は枯草が堆積したフカフカで柔らかく、膝にやさしく歩きやすい。



道案内の標識は頻繁にあり迷うことはない。





檜林の登山道が続く。
新緑の若葉を吹き抜けてくる風は爽やか
で気持ちが良い。



登り始めて45分、標識が出てきた(10:05)。
藤原峠・風張峠の分岐点だ。



傍に馬頭観音が祭られていた。
この登山道は昔の檜原街道で、馬で物資を
運んだのだそうで、行く先々に馬頭観音が
現れた。



最初の休憩、岡部さんからケーキを頂く。
ここは既に標高 900m を超えており
尾根筋は近そうだ。



暫く進むと大きな岩があり、「サル石」とあった。猿の手形が見えるらしいが、よくわからない。
前回の破風山ではサル岩があった。



更にアップダウンの少ない道を進むと「一本杉（一本松）」の標識があり、檜林の中に大きな1本の杉古木だった。
その近くにも「馬頭観音」があった。
(10:35)



高低差の少ない緩やかな尾根道は快適だ。
新緑の若葉がまぶしい。



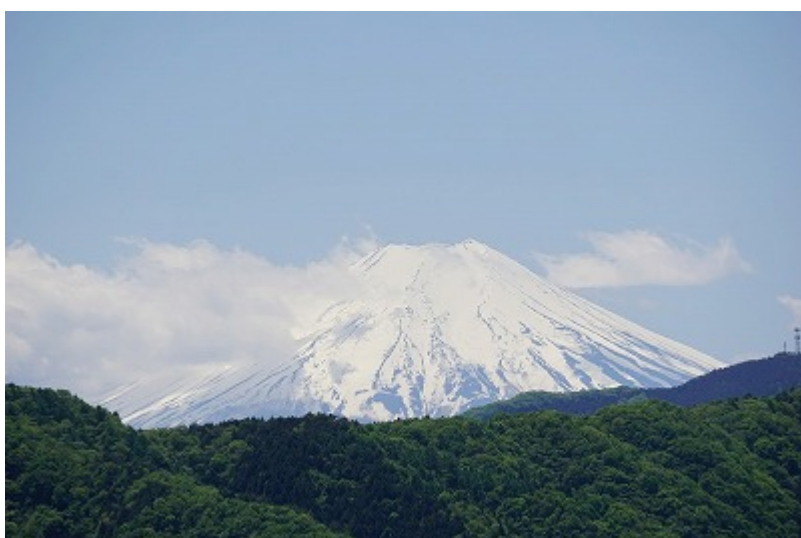
「人里（へんぼり）」へ下る分岐に小さな
祠があった（11:00）。



地図で確認し、山頂に近いことを確認する。



11:25 浅間嶺山頂（903m）に到着。
山頂の標識の向こうに富士山が見える。



根岸さんが買ったばかりのカメラで撮った富士山。
実に綺麗に撮れた。



山頂で昼食。



記念の集合写真を撮って下りに入る。
11:55 で予定より 35 分早いペース。



40 分程下ったところに古民家風の店があり「お代官休息所跡」とあった。物資の人馬による輸送だけでなく、
参勤交代の街道でもあったのか？ 水車で水を引いた池には「クリンソウ」が多数咲いていた。





標高差約 400m 下ると「時坂峠」についた。
(13:00)



開けたところから都心のビル街と左の方にスカイツリーが見える。
ここから「払沢の滝」バス停はもうすぐだ。



バス停から歩いて 10 分、13:40 払沢の滝に到着。

武蔵五日市駅へのバスまで 40 分近くあったが、バス停に着いた時、丁度、増発の臨時便がきて飛び乗った。
岡部さんは用事があるとのことで、このまま武蔵五日市駅へ、他男性 3 名は温泉のため十里木で下車



十里木で下車し秋川溪谷の上流を渡り「瀬音の湯」へ向かう徒歩 10 分（14:20）。



秋川溪谷の上流。

「瀬音の湯」でユックリ入浴・休憩し、
16:00 に迎えのタクシーを頼み、武蔵五日市駅へ。



16:10 に駅に到着し、当初の予定より 1 時間位早く、ホームベンチでツマミを広げで宴会。

根岸さん、能勢さんは拝島で乗換とのことで、16:27 の拝島行で、熊本はその後の東京行のホリデー快速で帰路に着く。



能勢さん、根岸さんお疲れ様でした。

40 分の登りで 900m の尾根道にでて、後は急なアップダウンのない尾根歩きで、新緑の森林浴ができました。山道を約 13km と距離を稼ぎ、4 人とも一週間後に参加する九州ツアーへの足慣らしが出来ました。